

「ARTSHIP明石」10周年記念号

~ArtShipAkashi 10th Anniversary~



個性豊かなアート展

2022

ARTSHIP明石

時をつないで、いざ出航

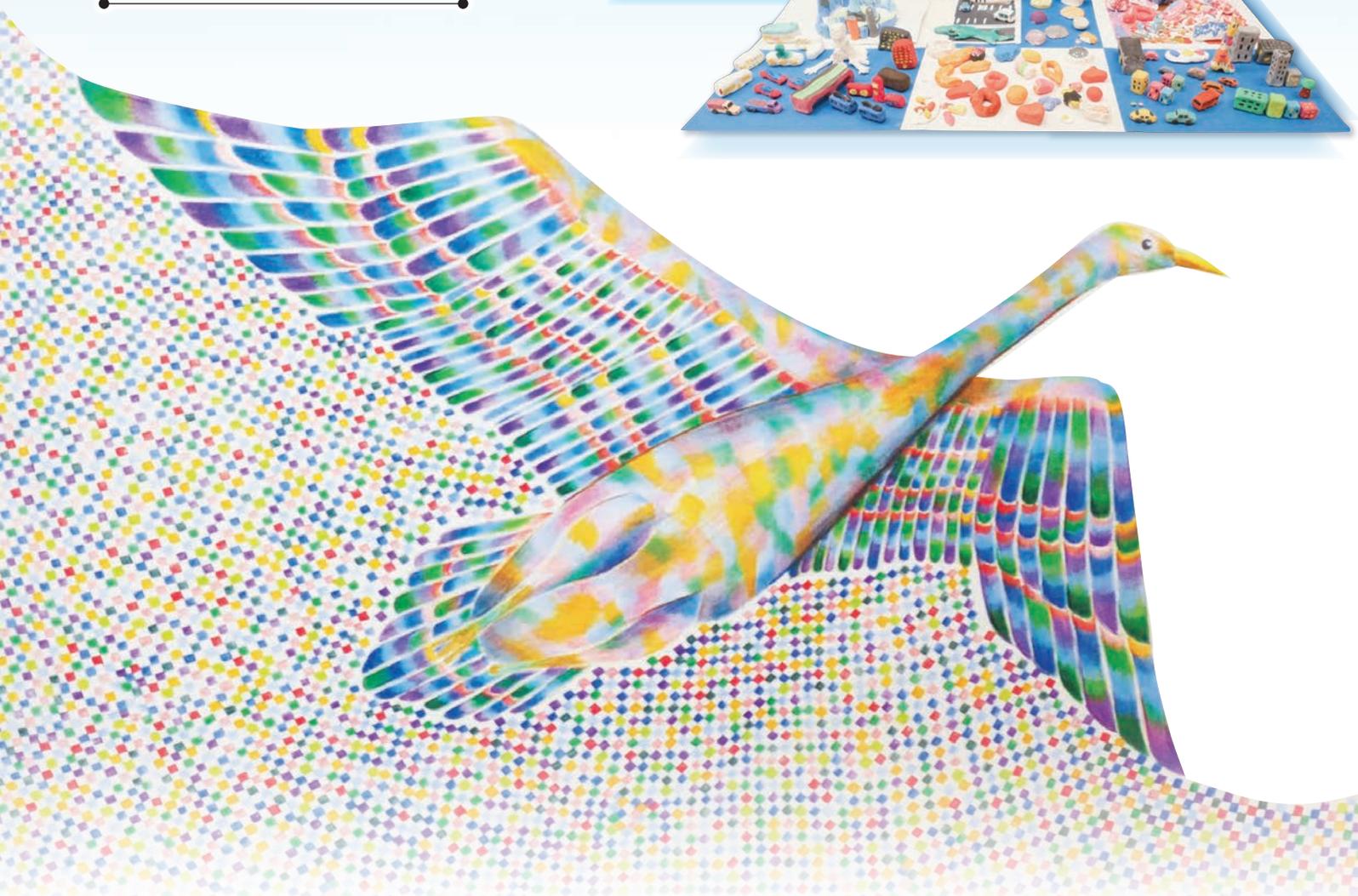
ARTSHIP明石2022開催期間

2022年

12月14日(水)~20日(火)

10:00~17:00

明石市立文化博物館



CONTENTS

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1p アートシップ明石2022を通して | 5~6p 作品紹介 |
| 2p アートシップに関わって | 6p 同時開催!「ARTSHIP明石2022」10周年イベント |
| 3p アートシップ初参加 | 6p 来場者の声 |
| 4p 田寺 誠人 作品紹介 | 7p ヘルプマーク・ヘルプカードを知ってますか? |

【表紙イラスト】
作品名:渡り鳥
作者:田寺 誠人氏

アートシップ明石2022を通して

特定非営利活動法人
明石障がい者地域生活ケア
ネットワーク



理事 川田 晋さん

今年度もアートシップ明石を開催することができました。まずは、このような機会を与えていただいていることに深く感謝を申し上げたいと思います。明石市の委託事業として素晴らしい会場で開催できること、展示作品の作者はこのような機会を得ることで創作意欲を高め、持てる力以上のものを発揮していると感じます。参加事業所等のスタッフもより素晴らしい展示会が出来るようにと最善の努力を行うことに繋がっていると実感します。心よりお礼申し上げます。

アートシップは、障害者アートを広く市民の皆様に観ていただき、感性豊かな作品の数々を通して、その素晴らしさを知っていただくことを目的として開催をしています。そして、アートシップを通して、障がいのある方の理解を広げていき、だれもがそこに住む「共生社会」の実現や「インクルーシブな社会」の実現につなげていけるものと考えています。私自身、アートシップ明石の担当をさせていただき3年目になります。そもそも芸術には疎い自分出来るのかな?と思いつつ関わらせていただきましたが、(今でも疎い所にかわりはないですが...)展示される作品を見て、いつも感動をいただいています。作品を見てると元気になります。自分も頑張ろうと思ったりします。同じような感動をぜひ多くの方に味わっていただきたいと思います。

さて、今年度は10周年ということで今まで以上に力が入りました。6月から参加(出展)事業所の担当者が集まり、話し合いをしながら進めてきました。テーマから、内容まで意見を出し合い作り上げてきました。担当者の皆さんは、自分の事業所だけでなく、運営のことなど幅広く参加していただいています。来場者数は過去最高になり、評判も良く、素晴らしい成果を出すことができました。特に今回は参加型にして皆で作る作品などを取り入れたのが良かったと思います。クリスマスツリーのオーナメントづくり、大海原の船(ARTSHIP号)のかざりや帆に貼るイラストづくりなどです。ただ観るだけでなく、自分でも参加して作成する取り組みは、今まで以上の一体感を生み出したのではないかと思います。

明石文化博物館様との共催になった[X'masMarket]の取り組みもさらに盛り上げる一因になったと思います。今までは展示スペースの一角でおこなっていた、音楽演奏や絵画の作者の講演やワークショップがロビーで行えることになり、ARTSHIPの見学者だけでなく、広く、子どもたちを始め市民皆様に参加していただけることにつながりました。明石文化博物館の皆様にも感謝いたします。

ARTSHIP明石の存在がもっと広く多くの皆様に知っていただけるように、発展していくように、力を合わせて取り組んでいければと思います。今後とも応援よろしくお願いいたします。

アートを楽しむ -自由に描く・遊びまわる-

特定非営利活動法人
明石障がい者地域生活ケア
ネットワーク



理事 浅原奈緒子さん

今年のアートシップも、子どもたちや大人の方が、それぞれの事業所で作られた作品が展示されました。色鉛筆やマーカー、絵具、布や段ボールなど、いろいろなもので作品が作られていました。ひとりでコツコツと作られたものや、みんなで一緒に作ったもの、長い時間をかけて作られたものや、一瞬のひらめきで完成したものなど、過程も様々です。

- ・自分の手指や腕、身体全体の筋肉運動によって自由に感性を表現する
- ・描くことそのものが目的となり、創作活動が生きる喜びへと繋がっていく
- ・絵が苦手でもみんなで作品をつくることで「自分でもできた」という充実感を味わう
- ・自分のどんな表現も受容されるので、自然と他者の作品や感性を受け止められる

作品一つ一つに、いろいろなストーリーがあります。ここに掲載させていただいた作品をご覧ください、作者さんの創作風景などを思い浮かべたり、どんなことを考えながら作ったのかなどと、想像していただきながら楽しんでいただければと思います。

ひろがるパラアートの世界

特定非営利活動法人
明石障がい者地域生活ケア
ネットワーク

理事 佐藤 右京さん



「わあ、すごい!」「興味深い絵だなあ!」

会場にいますと、あちらこちらから来場者の感嘆・感心の声が聞こえてきます。

今年で記念すべき10回目の開催を数えるアートシップ明石展です。

私たちも施設として毎年参加しています。

その積み重ねで、展示作品を制作する当事者の「やる気」や感性の進化が見えてきます。(^^)

年々作品の完成度の高さからモチベーションや達成感の充実度が伝わってきます。

「手がこんでいるなあ」や「何人で作ったのだろう」などの純粋にため息の出る作品の感想も聞かれました。どの作品も、見ていただくたくさんの方に驚きや楽しみなど感動を起こそうという強い意気込みが感じられ、その作品の評価を望んでおられることがとても想像できます。

中には「これはいくらで買えるのだろう?」等の声も聞かれました。

これは何よりパラアートが分野として社会に受け入れられ、その価値を評価する概念が少しずつ形成されている証左だと思います。

事実、パラアートとしてコンテストの開催、作品の販売や商品化の動きがどんどんひろがっています。

今後もひろがるパラアートの世界、一員としてさらなる発展に注力してまいりたいと思います。

“いざ 出港”

特定非営利活動法人 ウィズアス
就労継続支援B型事業所 ほのぼの

管理者 那須 徹哉さん



アートシップ10周年記念作品を提案、企画製作を担当した。

仲間達(絵)を積み、マストになびく、大きなセイルに来場者の方々の絵やコメントを貼って毎日帆を上げていく。最終日には満帆のメッセージが広がるってなもんや!

船の周りに魚など海をイメージする作品を各事業所に呼びかけた。初日、魚・たこ・イソギンチャク・何だこれ?と浮輪まであった、個性あふれた絵に囲まれて威風堂々"THE ARTSHIP"は出港する。来場者のコメントカードも日に日に増え、天井まで帆が張り上がり最終日を迎えた。

製作中、作業所⇄アトリエと仲間達の描いた作品を自転車に積んで往復するとメンバーさんから「デコチャリですねー」と笑顔がこぼれる。商店街で声をかけられアートシップの話をする、ちびっ子が澄んだ目で絵を見ている。



そして最終日、作品とともに船を搬出、2階アトリエに運び上げていた時だった、1階の小児科前でちびっ子が大量の作品群を見て声を上げた。僕は「今日まで文化博物館で・・・」と言うと、すぐに「あー!アートシップ!!」とお母さんが応えてくれたのがとても嬉しかった。まちの人たちはぼくたちの仲間を見ているんだ。アートシップとはノーマライゼーションのまちづくりなんだ。

アートシップに初参加

社会福祉法人 三田谷治療教育院
明石市立ゆりかご園

児童発達支援管理責任者

副主任 徳岡 優子さん



ゆりかご園として初めてアートシップへ参加しました。参加するねらいは「作品を作らせる」ではなく、お子様が「自分は何かをしたいか」「どう表現したいか」という気持ちを持ち、それが実現できる場があることを経験していただくことでした。心がけていたことは、お子様の「自己選択」「自由な表現」を大切にすることです。

何色の紙を選ぶか何色の絵の具を使うか、それぞれお子様の表現方法に合わせて選択してもらいました。使いたい方に視線を向ける、手を伸ばす、色の名前を教えてくれる、表現方法は様々ですが、自ら選択する姿を見せてくれました。筆や道具、手や足に絵の具をつけると自ら身体を動かして、絵の具の感触を肌で感じたり、道具を動かしながら身体の揺れを感じたり、目で見たり、クレパス、筆や道具が紙と当たる音を耳で聞いたり、これもまたそれぞれの感じ方で取り組んでくれました。

お子様の「できること」が増えるように支援することはもちろんですが、今後の生活でも大切である「自己選択」「自由な表現」を日々の活動の中でも行い、お子様自身が選択したことが実現できる喜びを感じてもらえる場をたくさんつくりたいと思います。



10th ANNIVERSARY

春夏秋冬みちくさ日和 ～みんなの得意を集めました～

特定非営利活動法人 マーチング
就労継続支援B型事業所 みちくさ本舗

代表理事 長尾 拓也さん



今までは「見る側」だったアートシップ。今回は「見てもらう側」として参加しました。

みちくさのメンバーさん達も最初は嬉しさと恥ずかしさが入り混じっていましたが、いざ製作が始まると、いつも以上に真剣で、且つめっちゃくちゃ楽しそうで、いつもとは違う表情を見ることができました。

そんな素敵な時間が集まって一つの作品となっていく喜び。展示を見に行った時、みんなが何を感じたのか、あえて聞いてはみませんが、柔らかい表情を見ていけば♪

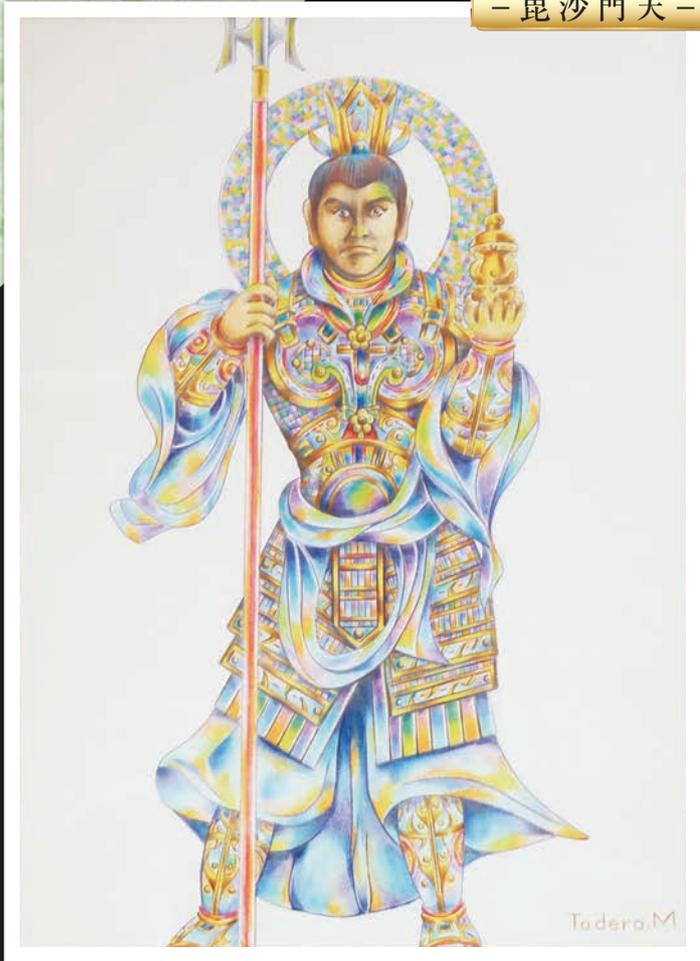
そして、他の事業所の皆さんの作品も素晴らしいものばかりでした。まさに十人十色で同じものは一つもなく、「みんな違ってみんないい」というメッセージが伝わってきました。

アートの魅力は、日常のいろんなフィルターを取っ払って感性を自由に解放してしまえるところなのかもです。だからこそ、全ての作品にリアルなその人らしさが出ていて、見ている側にも伝わってくるのかなと思います。

そんな、自由で夢があって、見る側も見てもらう側も、どちらもワクワクさせてくれアートシップ、次回もぜひ出展したいと思いますので、よろしくお願いします。



— 毘沙門天 —



— 波と遊ぶイルカー —



アートシップ明石2022 参加事業所及び個人名

デイサービスぱれっと
 NPO法人こぐまくらぶ
 明石市立木の根学園
 明石市立あおぞら園・きらきら
 明石市立ゆりかご園
 スモールステップ
 放課後等デイサービス太陽
 地域活動支援センターくれよん

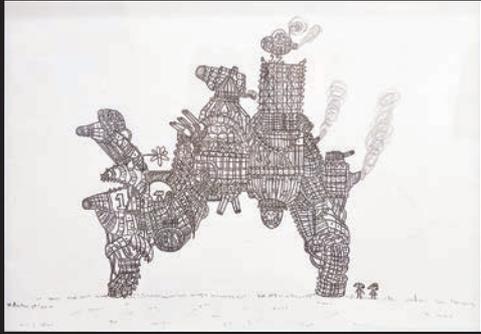
くれよん
 サポートセンター翔
 作業所・ほのぼの
 コスモス共同作業所
 児童デイサービス キッズ☆スター
 波の家福祉会
 ジョブエル
 オフィスジョブエル

ワークス大久保
 ワークスペース ななかまど
 LOVE&PEACE
 博由園
 にじ作業所/パン工場なないろ
 時のわらし
 ひまわりの家 おおくぼ作業所
 大地の家

居場所
 みちくさ本舗
 わかば
 コレクト伊川谷教室
 縄 雄介氏
 田寺 誠人氏

ARTSHIP明石2022 出展作品紹介





「ARTSHIP明石」10周年記念イベントを行いました!!

「ARTSHIP明石」開催10周年を記念して、令和4年12月18日(日)に記念イベントが同所にて行われました。

カントリオE134による演奏会 (11:00~11:45)
1階ロビー

田寺誠人氏講演&ワークショップ (13:30~14:30)
1階ロビー



【カントリオE134】

明石在住の弦楽器奏者、ヴァイオリン 定延由希子(大阪音大卒)、ヴィオラ 長谷川 縁(ウィーン国立音大卒)、チェロ 藤井 香櫻(大阪音大卒)の3名で結成されたトリオ。



定延 由希子



長谷川 縁



藤井 香櫻



【講演テーマ】

「色鉛筆で描く絵の表現について」

色鉛筆をたくみに使って、鮮やかに心と和む作品を作り上げる田寺 誠人氏。作品についてのお話と、色鉛筆のワークショップが行われました。

～来場者の声～

- ・たのしかったです。
- ・自分もアートを作りたくなりました。
- ・10周年おめでとう!
- ・みんなでなかよくがんばってください。
- ・Happyになれました。
- ・ステキな作品、よかったです。
- ・やさしい明石、これからも。

みんな、ちがって、すばらしい。



配慮が必要な人のために



ヘルプマーク・ヘルプカードを知っていますか？

ヘルプマーク(カード)は、「手助けが必要な人」と「手助けしたい人」を結ぶマーク(カード)です。障害のある人がまちに出たとき、予想もしていなかった場所で思わぬ困りごとが起こることがあります。周りの人はそのようなときに助けを求められても「どう支援していいかわからない」という場合があります。そこで、その両者をつなげるためのきっかけになるのがヘルプマーク(カード)です。



ヘルプマーク



ヘルプカード



こんな方にお渡ししています

- 目や耳、言語の障害、内部障害や難病、知的障害、精神障害、発達障害など、外見では不自由さや障害に気づかれにくい方
 - 妊産婦の方
 - 認知症の方や高齢で体が不自由な方
 - けがなどにより体が不自由な方
- ※以上のほか、希望される方にお渡ししています。

ちょっとしたあなたの手助けが、誰かの安心につながります

ヘルプマーク(カード)を持っている人への支援の内容はさまざまです。

まずはヘルプマーク(カード)を持った人が困っているところを見かけた場合は、「何かお手伝いできることはありますか？」などと積極的に声をかけるように心がけてください。

本人が何かしらの事情でうまく支援の内容を伝えられない場合は、ヘルプマーク(カード)の裏面または中身を見て、支援の方法が記載されている場合は、その方法で支援をするようにしてください。

まずは「声をかけること、気にかけること」がとても大切です。

私は〇〇(名前)です。何かお手伝いしましょうか。



例えば...

こんなとき、こんな場面を見かけたら ➡ こんな手助けをお願いします。

- 発作でパニックを起こしたり、病変で急に倒れてしまって、自分の病気や障害を説明できないことがあります。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。ヘルプマーク(カード)にパニックや発作、病変のときにどうしてほしいかが書かれていれば、その方法で支援してください。

- 知的障害のある人がずっと同じ場所にいる。それは、もしかしたら、道がわからなくなったのかもしれない。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。ヘルプマーク(カード)に緊急連絡先が書かれていれば、そこに連絡してほしいか聞いてください。できるだけ安全な場所で過ごせるように配慮をお願いします。

【お問い合わせ・連絡先】

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号

TEL 078-918-5142 FAX 078-918-5048

明石市障害福祉課 障害者施策担当

E-mail shoufuku@city.akashi.lg.jp ※ヘルプマークの交付には、申請手続が必要です。

【発行】特定非営利活動法人 明石障がい者地域生活ケアネットワーク(略称:135Eネット)

【連絡先】〒673-0883 明石市中崎1丁目5番1号 時のわらし内 TEL&FAX 078-918-8500 【発行日】2020年10月14日

特定非営利活動法人明石障がい者地域生活ケアネットワーク(略称135Eネット)は、地域に点在する社会資源を有機的に繋ぐと共に明石市等の行政機関と協同し、障がい者に対して社会参画促進や生活支援に関する事業を行い、障がいのある方やその家族の方が、ひいては明石で暮らす市民の方々か明石の地で安心して暮らせるまちづくりに寄与することを目的としています。

※現在明石市及び周辺地域の100以上の障がい児者支援事業所や教育機関、当事者団体が連携・連帯のもと活動しています。



<ひなたぼっこHP>
<https://akashi-ud.info/>